

北のとびら

Kita no Tobira

特集

音楽

インタビュー

Jazz Vocal MIZUHO

ピックアップステージ

ウィンドアンサンブル ポロゴ



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

96

平成25年3月

道内で活躍する
親しみやすさを感じさせながらも
新しい作風の作家をご紹介します。

アートギャラリー / 第二十七回「絵画」

● 増田 寿志 自然とともにあるために、描く。



ドル Sheep / ペン画 / 2011
850 x 660 mm



ハイタカ / ペン画 / 2012
515 x 364mm (B3)



エゾシカ / ペン画 / 2012
420 x 297mm (A3)

父に連れられ山登りをしていた子ども時代から、自然の中に身を置くことにごく普通に親しんでいた。野生動物を撮る写真家になりたかったが、野生動物画家ロバート・ペイツマンの絵をみたとき、心が動いた。

海辺の断崖、漂う海霧、孤高なハヤブサがたたずんでいる。北の海特有の冷たさ湿つばさが迫り、打ちつける波の音が聞こえてくる。彼の作品にそこまで、入り込んだ。

独学で始めたが、ペン画なのは写実にはモノクロに向いているだろうと思えたからだ。黒の深みが足りないときは、鉛筆や黒のアクリル絵の具で補うこともある。

描くという表現は、僕にとって自然とかかわるためのもの。動物に引かれたのも、背景に大自然があるからだと気づいた。「生命を育むもの」の姿を描きたいのだ。

また、最近は湖や森などの「風景」を描きたいと思うようになってきた。大地そのものの力強さが魅力だ。

とはいえ、葉っぱ一枚、鳥の翼一つ、自然の中にあるものすべては時間をかけて完成されたかたち。自然の創った



北海道文化財団では事業を通じ
多様な文化を未来へと紡いでいます。
今回は、音楽にかかわる事業を
中心に取り上げ、ご紹介します。

表紙

木管五重奏団ウィンドアンサンブル ポロゴの
京極町でのコンサートより

もくじ

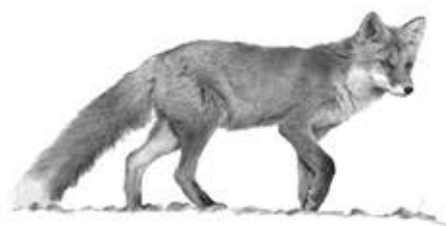
- 02 アートギャラリー / 増田 寿志
- 04 インタビュー / Jazz Vocal MIZUHO
- 06 ピックアップステージ /
ウィンドアンサンブル ポロゴ
- 08 共催事業レポート
 - 深川にジャズオーケストラを! (深川市)
 - 市民の手で合唱団を作ろう
岩見沢大合唱団「結」(岩見沢市)
- 10 文化活動の基礎知識 / 森一生さん
一つの作品をひもといてみると、
舞台づくりの醍醐味が見えてくる
- 地域からのお便り /
沼田町でのミュージカル
「はくの見つけた地球～沼田化石物語」
への取り組みについて(沼田町)
- 12 ひょうたんから駒の
「じんじん」来たぜ! 剣淵町!(剣淵町)
- 13 この街この人 / 上富良野町



緑と地球環境保護のため、古紙100%の
再生紙と植物油インクを使用しています。



オオワシ / ペン画 / 2011 / 850 × 660mm



キタキツネ / ペン画 / 2012
420 × 297mm (A3)



エゾキウサギ / ペン画 / 2010
515 × 364mm (B3)



増田 寿志

Hisashi Masuda

倶知安町出身。平成11年に初めてアラスカを訪ね、
間近にした野生動物の迫力に感動。現在は数々の
作品展・個展に参加するほか、ネイチャーグラフィック
クマガジン「ファウラ」の連載や、図鑑・書籍などの挿
絵、恐竜復元画の制作なども手掛けている。

ものは美しい。それとともにあるため
に描き続けていきたい。

音楽を通して、その場の空気を分かちあいたい

平成25年度
アートシアター鑑賞事業アーティスト

ジャズシンガー

JAZZ
VOCAL
MIZUHO

(ミズホ)

苫小牧で生まれた音楽好きの女の子は、やがてパークリー音楽大学で学び、ジャズシンガーの道へ。平成25年度、北海道文化財団による道内ツアーが予定されているジャズシンガー、MIZUHOさんの大切にされていることを伺いました。



アートシアター鑑賞事業

道内外で活動するアーティストによる舞台芸術(音楽、演劇、舞踊等)の公演です。財団が選定した上演演目や、各市町村等が連携して企画したネットワーク型公演を行う事業です。

音楽好きの女の子は
パークリーからジャズシンガーへ

苫小牧で生まれ、家族そろって音楽好き。幼稚園の頃には叔父の家でジームス・ブラウンを聴いて踊り、小学生の頃には妹とビートルズをハマっていました。

ジャズを知ったのは、大学生になってから。この頃からバンドを始め、ジャズやロックを歌い始めました。大学卒業後もバンドを続けましたが、次第にメンバーの仕事の都合で活動は停滞気味になりました。そんなときに、ポークルスクールがあることを知りました。そこでコーラスグループのメンバーに加わり、初めてプロとしてステージに立ちました。「ずっと歌い続けていたい」という思いは増し、ほどなくプロシンガーを目指したのです。

その後、音楽の師匠でもある前原 頭(音楽プロデューサー)と結婚し、長男を出産しましたが「ジャズシンガーとして音楽を続けるなら行くべきだ」という夫の薦めで、生まれたばかりの子どもを連れてボストンのパークリー音楽大学に留学しました。そこで出会ったのが、リサ・ソーンン教授でした。

表面的な技術だけではない
心の表現、真実の音楽を

リサは、事故で下半身に障がいをもっていますが、車イスに乗って歌う歌は、とてもやさしく、美しく、心を打つものでした。音楽は、表面的な技術だけではない心の表現ですから、カラダのすべてを使ってステージで歌う彼女の姿勢を見て、「心を震わせるものがなければ表現者として片

手落ち。物まねではない自分の歌を歌いたい」という思いが沸き上がってきました。

帰国後は、2人目の子どもが生まれ、子育てと音楽活動に忙しい日々でしたが、やがて「リサに習いたい」という思いが増し、今度は2人の子を連れて再びボストンへ向かいました。滞在中、子どもたちも同伴し、初めてのレコーディングを行いました。

「真実の音楽だね!」。私の歌を聴いてリサが言いました。自分の素直な気持ち、音楽にのせていくこと。それは、リサから学んだ音楽の本質であり、最も大切にしていることなのです。

空気を震わせて
幸せな瞬間を伝えたい

現在は、札幌を中心に活動し、年

に数回、横浜や東京でライブを行っています。日々のライブ活動のほか、「ママと子どものためのジャズライブ」を行っています。これは子育てに忙しい頃から始めた、昼間、子ども連れのお母さんに音楽を楽しんでもらうための試みで、バンドの演奏の中で民話の読み聞かせをしています。

今年、北海道文化財団の共催事業での道内ツアーも予定されています。ステージでは、音楽を通してお客さまと思いを共有したい。その場の空気、情感を分かちあうような出会いを楽しみにしています。

音楽は空気を振動させて、相手に伝わっていくもの。自分の歌で空気を震わせて、世の中の素晴らしい、愛や美しさを伝えたい。それが、ミュージシャンの私にとって最も幸せな瞬間なのかもしれません。



クリスタルのような美しい歌声が響くMIZUHOさんのステージ。ママと子どものためのジャズライブでは「ぶんぶくちやがま」などの読み聞かせも行い、ステージに写した絵もMIZUHOさんが描いている。





北海道に届けたいメッセージ

Message for Hokkaido

冬の冷たい空気、夏の緑の中にあるエネルギーなど、北海道の自然がなければ、自分の中の何かが枯れていくんだろうと思います。広く美しい自然に抱かれ暮らす日常を通して、音楽の新しい何かに出会いたい。ジャズファンの方、そしてジャズミュージシャンを目指す方と、一緒に楽しみたいです。今、北海道のジャズシーンは熱いです。若い人も、ベテランも、中高生も、さまざまな年代の人が、いろいろなスタイルで活動しています。ジャズに限らず、音楽をもっと身近な生活の一部として楽しんでいただきたいです。



ウインドアンサンブル ポロゴ

木管 五重奏団

平成24年度

平成24年11月14日[水]

コンサート 京極町生涯学習センター「湧学館」

平成25年2月9日[土]

ワークショップ 新ひだか町立三石中学校

平成25年2月10日[日]

コンサート 新ひだか町福祉センター

ウインドアンサンブルポロゴは、平成19年に結成された木管五重奏団。5人は女性奏者によって編成され、フルートやオボエといった楽器を担当しています。平成21年度からは北海道文化財団の「文化の宅配便事業」で4年にわたって、全道各地で公演やワークショップを行ってきました。

平成24年度は、京極町と新ひだか町三石を訪問。京極町のコンサートでは、前売りの時点で約100人を収容するホールがほぼ埋まり、当日は急遽バイブイスを並べるほど満員になりました。前半は各楽器の紹介や音色を生かしたソロや、ガーシェウインの「ラフソナイ・インブルー」をはじめとするクラシックの曲を演奏。後半はスタジオジブリの映画音楽やロシア民謡など、親しみやすい曲目のメドレーでした。小さな子どもから高齢者まで幅広い年齢層で埋まったホールでは、「となり」の「トロロ」の曲に合わせて一緒に歌う子どもたちの姿もあり、晩秋の京極町が、木管楽器の優しい音色に包まれました。

続く新ひだか町三石では、コンサートの前日に三石中学校でワークショップを実施。同校吹奏楽部の生徒たちと楽器別に分かれ、各々の楽器の特性を生かした練習方法や演奏法を指導しました。プロの演奏者から教わる機会の少ない生徒たちは、できるだけ多くのものを吸収しようと予定時間

息の合った旋律を聞かせてくれたポロゴのメンバー。



三石中学校でのワークショップでは、個々のレベルに合わせて一人ひとりアドバイス。約1時間半のレッスンでしたが、終わる頃には音、音色が格段に良くなっていました。



木管五重奏団 ウィンドアンサンブル ポロゴと北海道文化財団 「文化の宅配便」での実績

平成23年度

- 月形町 コンサート (月形町多目的研修センター)
ワークショップ (月形小学校、札比内小学校)
喜茂別町 コンサート、ワークショップ (喜茂別中学校)
初山別村 コンサート (初山別村交流センター)
せたな町 コンサート、ワークショップ (せたな町ふれあいプラザ)

平成22年度

- えりも町 コンサート (えりも町福祉センター)
ワークショップ (えりも小学校)
真狩村 コンサート (真狩村公民館)
ワークショップ (真狩中学校、御保内小学校)

平成21年度

- 松前町 ワークショップ (松前中学校)
コンサートを (松前中学校体育館)



満員となった京極町で。

● 4年間の活動を経て、今思うこと



大島 さゆり
(フルート)

生の音楽に触れない地域の子供たちに音楽を届け、ダイレクトな反応を感じることがうれしいです。これからもたくさんの出会いを求めていきます。



岡本 千里
(オーボエ)

『文化の宅配便』で出会った中学生が、その後オーボエを始め、私の音楽教室の生徒になりました。出会いに感謝し、今後も音楽を届けたいです。



長岡 碧
(ホルン)

地域によって年齢も反応も違いますから、4年間は毎回試行錯誤しながらプログラムを考えました。そうした経験が、5人のアンサンブルがまとまるきっかけになったと思います。



諸岡 今日子
(ファゴット)

ファゴットはあまり知られてない楽器かもしれませんが、木管五重奏を通してそれぞれの楽器に興味を持つきっかけになり、音楽って良いなと思っていただけるような演奏を続けていけたらと思います。



山本 郁実
(クラリネット)

4年間の経験を積み、少しずつ喜んでもらえる選曲や構成ができてきたように思います。これからも経験を積んで、より良い演奏と普及促進の活動を続けます。

ぎりぎりまでレッスンを受け、ポロゴのメンバーの指導もますます熱が入っていききました。木管楽器の音色の美しさとクラシック音楽の楽しさ、そして新たな出会いを運んでくれるウィンドアンサンブルポロゴ。今度訪れるのは、あなたの。まち。かもしれませぬ。



活動開始から3年、趣向を凝らしたジャズ事業の企画運営など地元で着実に力をつけた、ジャズフェスティバル。



中学校の吹奏楽部でもジャズの演奏が定着してきている。

深川市 深川にジャズ オーケストラを!



「深川にジャズオーケストラを！」市民の間にそんな気運が高まったきっかけは平成18年、関西を中心に活動するプロのジャズバンド「ブラック ボトム プラス バンド」(以下BBB)の公演でした。メンバーと市民との交流が生まれ、以後、毎年のように小・中・高校の吹奏楽部とのジョイントが実現。「もっとジャズに触れ合う機会がほしい」という市民からの声に応えるため、NPO法人深川市舞台芸術交流協会が新たにジャズバンドの結成を呼びかけ、同時に3カ年計画でジャズフェスティバルの開催を企画したのです。メンバー募集を開始すると「待っていました」とばかりに、小学生から60代まで28人が集まりました。平

初年度とその翌年は市民音楽祭に参加。念願のジャズフェスへと向かって活動を続けます。そうして迎えた3年目の平成24年。メンバーは密かに温めていた企画を次々に発表し、行動に移しました。それは、浴衣で行う「サン・ジャズ〜ゆかたまつり」や、飲み物を提供しながらジャズの歴史を体験する「ジェネックス・ミュージック・カフェ」。認知度が上がるとともに、市民に受け入れられているのを実感していきました。そして11月、深川市文化交流ホール「みらい」で「JAZZフェスティバル in ふかがわ」を行い、ジェネックスをはじめ市内や旭川で活動するジャズバンド総勢6組が参加しました。BBBもゲスト出

成22年の夏、市民待望の深川ジャズオーケストラ「Big Band Genex」(ビッグ・バンド・ジェネックス)が誕生しました。指導者には、深川市民にジャズの魅力をもたらしてくれたその人、BBBのトロンボーン奏者・大嶋康司さんを迎えました。月に1度、大嶋さんが深川に足を運んで指導し、それ以外はメンバーで週1回の練習を続けてきました。「楽器は全員が自前。持ち寄った楽器だけで演奏できるように大嶋さんが曲をアレンジしてくれました」と、市民バンドならではのエピソードを事務局の三ツ井育子さんが語りま

深川ジャズオーケストラのあゆみ

- 平成20年度
 - 9月 ブラック ボトム プラス バンドの公演で市内の小・中・高校吹奏楽部が共演
 - 1月 深川西高校吹奏楽局OBによるJAZZバンド「アグロメレ」結成
- 平成21年度
 - 10月 JAZZ フェスタ2009
- 平成22年度
 - 8月 北海道文化財団共催事業・まちの文化創造事業により深川ジャズオーケストラ「Big Band Genex」結成
 - 12月 ふかがわ市民音楽祭
- 平成23年度
 - 8月 ふかがわ市民音楽祭
- 平成24年度
 - 5月 Big Band Genex Live サン・ジャズ
 - 7月 サン・ジャズ〜ゆかたまつり
 - 8月 Big Band Genex みらい夏祭り出演
 - 10月 Genex music café
 - 11月 JAZZ フェスティバルinふかがわ

演し、クライマックスには出演者全員と会場が一体となって「聖者の行進」を演奏し、歌い上げました。「高齢の方まで立ち上がって歌ってくれたのが印象的でした」と三ツ井さんは振り返ります。会場が一つになって盛り上がる様子は、「深川にジャズオーケストラを！」と立ち上がったときに思い描いていた「音楽でまちを元気に」というそのものでした。「ジャズフェスを深川の恒例行事にできたら」と、さらなる夢が広がっているようです。

岩見沢市

市民の手で合唱団を作ろう 岩見沢大合唱団 結(ゆい)



岩見沢市

詩をつなぎ、想いをつなぎ、故郷と人々をつなぎ……。そんな願いのもと、岩見沢市には40年もの間、市民に歌い継がれてきた曲がありま。岩見沢で暮らす人々の心を支え、また、故郷を想いながら離れて暮らす人々の心を温めてきた、「交響詩岩見沢」です。

同市の開基90年・市制30周年を記念して昭和48年に誕生したこの交響詩は、序章「コタン」に始まり、「村の誕生」、「故郷の栄光」、「北国の象徴」の第三楽章まで、約30分におよぶ壮大な曲目で、岩見沢の過去と現在と未来を表現しています。

しかし、最近では小・中学校でもあまり歌われなくなってきたことから、「故郷の詩が絶えてしまつ」

ことを危惧した有志が、市民で「交響詩岩見沢」を歌う合唱団の結成を企画。しかも、札幌交響楽団のフルオーケストラで歌うという大きな目標を設定したのです。発起人代表を務めたのは、市内で多数の音楽事業などを手掛けるNPO法人はまなすアート&ミュージックプロダクションの竹内恭平さんでした。

平成24年1月、参加希望者が初めて集まる説明会には、予想の70人をはるかに超える150人が出席しました。市民の関心の高さがうかがえる中、経験も年代も違う市民による岩見沢大合唱団「結」が結成されました。

市民への初のお披露目となったのは、平成24年3月に行われた「東日本大震災チャリティコンサート「大空と大地の中で」2012」。

32団体が参加したこの事業で、グランドフィナーレに登場した「結」は、「交響詩岩見沢」第三楽章を歌い上げました。さらに、改装した市民交流施設「であえーる岩見沢」のオープニングステージとして、演劇と歌を織り交ぜた「郷土愛・岩見沢」に出演しました。この舞台で脚本・演出を手掛けた竹内さんは、大合唱団としての「手応えを感じた」と語ります。

12月には単独コンサートで「交響詩岩見沢」の全楽章を演奏しました。平成25年1月には団員数も

250人に加え、いよいよ3月に行われる札幌交響楽団とのジョイントに向けて練習もラストスパートです。

「6月には、「結」の集大成ともいえる札幌と札幌合唱団とのジョイントコンサートが控えています。その後、活動は一旦ピリオドを打ちますが、こうして「交響詩岩見沢」を次の世代へとつなぐことは続けていきたい」と、指導者やスタッフたちの願いは尽きません。

雪深い岩見沢で誕生した市民による大合唱団は、雪解けの春から新緑の季節を迎える6月30日の大フィナーレに向けて、力強く羽ばたいていきます。

岩見沢大合唱団 結(ゆい)のあゆみ

- 平成22年度
 - 11月 企画立案
- 平成23年度
 - 9月 パート指導者を集めて準備委員会
 - 12月 団員募集開始
 - 1月 参加者説明会(団員数150人) 下旬 第1期練習スタート
 - 3月 11日 東日本大震災チャリティコンサート「大空と大地の中で」2012で初披露
- 平成24年度
 - 4月 1日 「であえーる岩見沢」オープニングステージ「郷土愛・岩見沢」フィナーレに出演
 - 6月 第2期練習スタート(団員数200人)
 - 12月 岩見沢大合唱団「結」コンサート
 - 1月 第3期練習スタート(団員数250人)
 - 3月 24日 まなみーるDEクラシック2013に出演し、札幌交響楽団と初のジョイント
- 平成25年度
 - 4月 第4期練習スタート
 - 6月 30日 札幌×札幌合唱団×岩見沢大合唱団「結」コンサート(仮題)



経験者、未経験者が共に歌う市民合唱団。
結成時に指揮者から「全員が初めて歌う気持ちで、この故郷の詩を歌ってください」とのメッセージを大切にしています。

学校演劇の足跡からみた舞台づくり

だから面白いは

第4回

一つの作品をひもといってみると、舞台づくりの醍醐味が見えてくる

高校演劇は、北海道の演劇において欠かせない柱の一つ。その作品には先人たちの苦労や熱い思いが詰まっており、深く知るほどに舞台づくりの醍醐味が見えてきます。第4回は、一つの作品を題材に、舞台の面白さに迫ります。

自分自身の思いを詰め込み、スタツフとつくりあげていく「舞台づくり」の面白さ

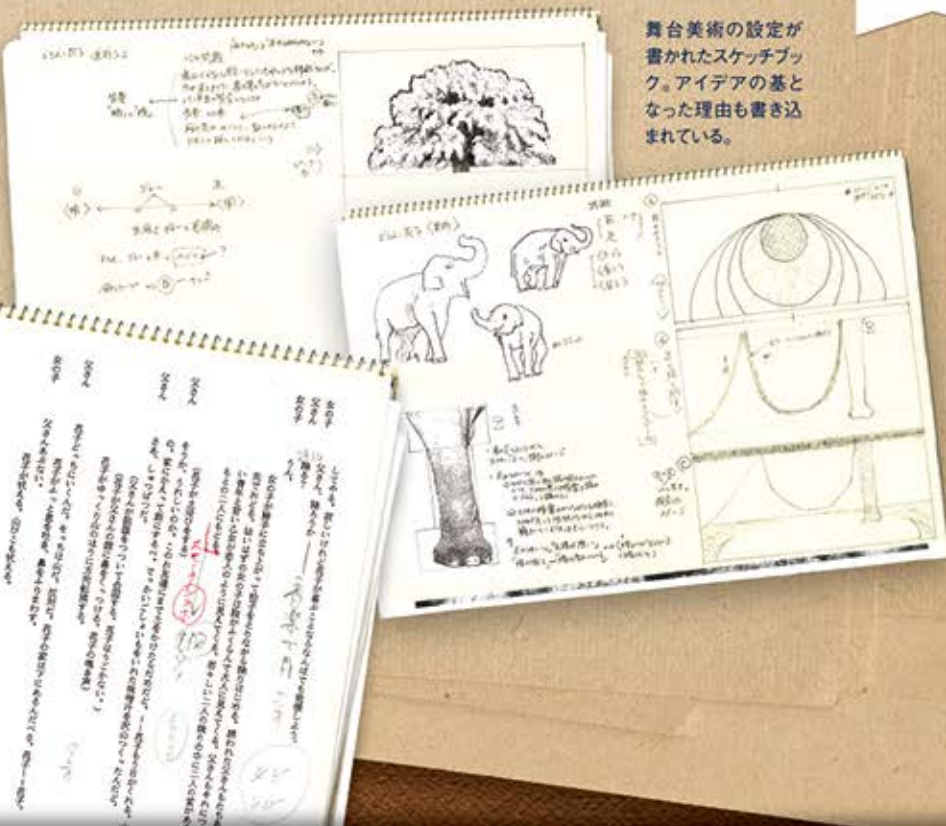
これまで過去に公演された高校演劇を取り上げ、歴史や舞台美術、演出などを紹介してきましたが、今回は一つの作品をいかにしてつくりあげていくかを、私がかつて手掛けた作品、「ステージメルヘン」を具体例にしていきたいと思います。

この作品はもとも、昭和46年に札幌市民劇場第13回特別公演さっぽろ演劇協会合同公演として上演されたもので、本山節彌氏が台本を執筆しました。私も当時、演出助手グループ・舞台監督助手として参加しました。それを平成7年に顧問をしていた札幌静修高校で高校演劇版として上演し、全道大会で最優秀賞、そして平成8年の全国大会に出場しました。

作者である本山節彌氏は、劇の主題を「物語に登場する象と人間の大きな命と命が、北海道という大きな大地の上で宝石のように輝きながら融合して昇華する」と話されていましたが、私はその主題をもとに、いくつかのこだわりをもつて舞台美術の制作や演出を行い、高校演劇版につくりあげていきました。

物語には病気でぼろぼろになったメスのインド象の花子

舞台美術の設定が書かれたスケッチブック。アイデアの基となった理由も書き込まれている。



文・写真協力 森 一生

昭和42年に札幌静修高等学校演劇部の顧問に就任。以降、長年にわたって高校演劇の指導に尽力し、同校を2度の全国優勝に導く。北海道高等学校文化連盟(高文連)演劇部の事務局長も務め、北海道高校演劇のレベルを全国トップクラスまで引き上げた功績は高く評価されている。



花子は10数名の生徒たちが演じ、同じ表現行動を取ることで人間と象との大きさの違いを表している。また、物語には大地の精も登場し、灰色の服を着た花子と白い服の妖精とのコントラストで、神秘的な場面に演出した。



と、殺して剥製にしようと考えていた動物園から花子を引き取った。父さんが登場します。「お前、生きていたのか」「よし、おらがお前を助けてやる」「北海道の冬は寒く、お前の生まれたタイやインドとは違う。体力を付けておかないば、とても冬は越せない。わかるべ。体力をつけるためには歩かないばならない。歩くためには立たねばならない」。そう花子に話しかける父さん。それに応え、花子は父さんのもとで必死に生きようとしています。舞台美術として、オブジェやひもを使い、抽象的で大きな象を舞台上に表現しました。病気に苦しみながらも、大地を固く踏みしめて懸命に生きる象の命そのものを映し出そうと考えました。

さらに演出面でこだわったのは、手を使った表現です。その昔、千手観音の「手」は「目」だったと言われています。「手」を「目」に見立て、握ったり、開いたり、手のひらを向けたりすることで、父さんと花子が交流する姿を描き、さらにはお互いを認め、通じ合っていく、心の動き、さえも伝えようと試みたのです。

そして、物語全体を通してこだわったこと。それは、色でした。この物語の主題には、命、という存在があり、そこには生と死がかかわってきます。衣装や照明にはグレーを基本として用い、それをどう明るくし、どう暗くしていくか、そうすることで、生きる希望や死に対する不安といった心情を表現し、色によって重要なメッセージも表現しているのです。

ほかにも効果音を使うなど、細かな演出は数えきれません。演劇は、二つの台本をいかに読み解き、演出し、どのように表現するかが大切ですが、それは演出家だけの役割ではないのです。台本が演出を通してさまざまな形へと変化していくように、演じる役者やスタッフたちとつくりあげていく過程で、思いもみなかった方向へと変貌を遂げることがあります。自分の個性を保ちながらも、自分自身を超える作品となっていく。それこそが舞台づくりの醍醐味であり、だから舞台は面白いのです。

舞台上には、ひもを吊り下げ、足をイメージしたオブジェを配置。象をリアルに描くのではなく、抽象的に表現することで、物体ではない象の命そのものを舞台上に映し出そうと試みている。



花子が死に場所を求め、森へと入っていくラストシーンでは、象の足に見えていたオブジェが大木となり、花子が自然と同化したことを印象づけている。さらに舞台全体が「血」をイメージさせる「赤」に染まることで、「生」を表現し、死にかけていた花子が自然に還り、新たな命を宿した感動的なシーンをつくりあげた。

「ステージメルヘン・どさんこ花子」の台本。セリフの修正だけでなく、スモークや音楽を出すタイミングといった細かな演出もメモされている。

地域で行われているユニークな活動の紹介を、寄稿文でお届けします。

平成24年度
まちの文化
創造事業

沼田町でのミュージカル 「ぼくの見つけた地球〜沼田化石物語」への 取り組みについて

沼田化石物語実行委員／沼田町化石館 館長 篠原 暁



人口3千5百名のまちを中心に、たくさんの人をまきこみ、3年計画でゆつくりじっくりとミュージカル作品に取り組むことで、街の活性化と人との絆を強めていくことができる

取材にして沼田の良いところを再発見しながらミュージカルを上演しよう」と実行委員会を立ち上げた。

初年度である平成24年度はミュージカルについてアドバイスをいただくシンガーソングライターであり、男性コーラスグループ「コテューク・エイセス」のトップ・テナーの大須賀ひできさんとともに、地域に入ってお茶の間コンサートを開きながら参加者集めとPRに取り組んできた。全部で6回の会場は、文字通り家庭のお茶の間から博物館で化石に囲まれながらとさまざまだったが、大須賀さんの歌を聴き、みんなでミュージカルへの思いを語り合った。それと並行して地元の良いところを知ろうと学習活動にも

取り組んだ。また、夏には大須賀さんも同行し、実際に化石が発見された川原での発掘体験に挑戦して、本物の沼田町の自然と歴史に触れた。実行委員たちのほとんどは、ミュージカル制作が初体験だったが、大須賀さんを講師にワークショップに取り組み中で、素人の役者でも的確な指導により演技の質が大きく変わってくることを実感することができ、創作への不安が確信に変わっていった。

そして、1月27日に初年度の活動のまとめとして「大須賀ひできコンサート」を開催することができた。コンサートに先立ち、1年間の取り組みと、実行委員が書き下ろしたミュージカルの原作となる物語がスライドで紹介され、参加するメンバーたちにもいよいよ作品の実体が少しだけ見えてきた。その後、大須賀さんとピアノのシモンジュさんによりミュージカルのテーマ曲が初めて演奏され、軽快なリズムと親しみや



ミュージカルテーマ曲を歌う大須賀さんとシモンジュさん



500万年前の海底でタカハシホタテの化石をゲット!



会員宅に大須賀さんを招いてのお茶の間コンサート



化石たちにかこまれて〜ミュージアムコンサート

トピックス

ひょうたんから駒の「じんじん」来たぜ！ 剣淵町！

剣淵町観光協会事務局長 秋庭 良雄

剣淵町

4年前の秋、ひょうなことから俳優の大地康雄さんが「絵本の里 剣淵町」を訪問してきた。そのとき、絵本の持つ魅力とおじさんたちの読み聞かせに感銘を受け、それを映画にしたいと思ったのをきっかけに映画「じんじん」は生まれた。その後、大地さんの取材が始まり、俗に言う「ふんどしFAX」の文通が関係者と始まったのだが、その時点では町長をはじめ、剣淵町民も何が起きているのかわからないままだった。

翌年に入ると、大地さんを迎えたいの懇談会、映画「恋するトマト」の上映会、大地さんの講演会、山田大樹監督を迎えての懇談会と話がとんとん拍子に進み、いつの間にかロケハンもスタート。いよいよ剣淵町としても黙っているわけにはいかず、実行委員会を設立し、キャスト、スタッフの皆さんに喜んでもらえるよう体制を整えた。さらに剣淵らしい、おいしい食事をしていたらどうとお母さん

たちによる炊出し部隊も結成された。剣淵の食材で腕によりをかけてロケ中の昼食・夕食をつくり、ピーク時には100人分も用意した。お母さんたちも現場へ行くと、テレビでしか会えない大地さん、佐藤B作さん、中井貴恵さんたちがいるというところで、食事は常に笑顔が絶えず、もちろん料理の味にも最大級の賛辞をいただいた。ロケは順調に進んだものの、少子高齢化が進む過疎の町で、高校生役の若いエキストラを集めることに困難を極めた。しかし、近隣のまちの皆さんのご協力を得て、何とかしのぐことができた。無事にロケも編集作業も終わり、ついに映画「じんじん」が誕生。今年の5月から札幌、旭川で劇場上映が始まる。この映画は、大都市以外では「スローシネマ」という公開方式をとることになる。各地域で実行委員会を立ち上げていただき、ホールや公共施設で上映会を行う方式だ。

肝心のストーリーは、大道芸人の立石銀三郎(大地さん)が主人公で、一人娘はその銀三郎が語り聞かせるお話が大好きだった。しかし、妻と別れてからは会うことを許されず、娘との思い出は彼女が6歳のまま止まっている。ある日、銀三郎の幼なじみが営む剣淵の農場に研修で女子高校生4人がやってきた。そこに里帰りをした銀三郎。出会いは最悪だったが、大自然に抱かれ、土に触れ、剣淵町の優しい人々と触れ合ううちに次第に距離は縮まっていた。しかし、ただ一人、日下部彩香だけは心を開かない。いぶかる銀三郎は、ある日、彩香の秘密を知ることとなる……。

剣淵町でも、児童、生徒を対象とした試写会を行い、笑いあり、涙ありの子どもから大人まで楽しめる映画となっていた。ぜひ各地域での「じんじん」の上映会が企画され、「絵本の里 剣淵町」を皆さんに知っていただけたらと願っている。



映画には実在のイベント「絵本の里大賞」も名称を変えて登場



大地さんも大絶賛したお母さんたちの炊出し



佐藤B作さんと井上正大さんによる田植えの撮影シーン





このこの街 この人

第23回

人から人へ。一人から大勢へ。アートの可能性は、人を通して無限に広がっていきます。地域の文化を支えているさまざまな方たちを通して、北海道各地の文化を紹介します。

上富良野町

<http://www.town.kamifurano.hokkaido.jp/>

上川総合振興局

面積…237.18Km²

総人口…11,695人(平成25年2月末現在)

人口密度…49.4人/Km²

隣接自治体…富良野市、中富良野町、

南富良野町、美瑛町、新得町

町の木…アカエゾマツ

町の花…ラベンダー



「ふらの・ものがたり文化の会」代表
大西 邑子さん

ユニークな舞台
「人体交響劇」を指導

舞台装置も、特別な衣装や小道具も一切なし。昭和57年に詩人・谷川雁が設立した「ものがたり文化の会」が実践する「人体交響劇」は、子どもたちが宮沢賢治の物語を読み解き、そこで感じたことを体の動きと声だけで表現するというユニークな舞台です。



上富良野町読み聞かせ会「ムーミン」代表
羽賀 美代子さん

読み聞かせを通じて
子どもたちに笑顔を運ぶ

「子どもたちの輝くような笑顔と出会えることが一番の喜びです」。そう語るのは、上富良野町で読み聞かせの活動をしているボランティア「アサークル「ムーミン」」の代表・羽賀美代子さん。もともと、子どもと絵本が大好きで、町立図書館の臨時職員を退



多田精肉店 店主
多田 豊隆さん

商品化にチャレンジし
「豚さがり」の普及に尽力

道内各地の精肉店や焼肉店などで一般的に見かける「豚さがり」。横隔膜を動かす部位の肉ですが、実は、道外ではほとんど流通していません。「上富良野町は古くから養豚業が盛んで、もともと二部の食肉関係業者の間では親しまれていました」と話すのは、昭和37年創業の



① 佐川 泰正さん

[NPO法人 環境ボランティア野山人 代表]

上富良野町を中心に活動する環境ボランティア団体の代表として、フットパスづくりとその普及をはじめ、未来を担う子どもたちと共に自然の大切さを学ぶ体験型学習を実施している。自然や環境・人づくりをテーマとした講演会やワークショップの開催など、さまざまな活動を手がけている。

② 成田 政一さん

[かみふらのの郷土をさぐる会 会長]

昭和55年に発足し、上富良野の歴史や自然、産業、生活文化など幅広い分野の調査研究を手掛ける「かみふらのの郷土をさぐる会」。年1回、その調査研究や読者の寄稿をまとめた季刊誌「郷土をさぐる」を発行し、郷土の知られざる足跡を後世に伝えている。

③ 村上 和子さん

[生花草月流研究会 代表]

「個性」を尊重した自由な表現を求めた初代家元・勅使河原着風の華道「草月流」の研究サークルとして、昭和39年に設立。草月流の研究を深め、毎年開催される上富良野町文化祭には、その成果として会員の作品を展示・発表している。今後は地域住民を対象とした講習会等の開催も予定。

④ 村上 久代さん

[上富良野木版画同好会 代表]

白樺やコケ、木の皮など自然の素材を生かして十勝岳などの地域の風景を描く「木版画」制作サークル。昭和61年に10周年展を開催したほか、平成25年1月には上富良野町文化連盟創立50周年を記念して特別展示会を行った。

⑤ 和田 昭彦さん

[上富良野混声合唱団 代表]

平成24年に創立35周年を迎えた混声合唱団。平成8年、上富良野町の誕生100周年を讃える歌づくりを進める「開基100周年記念讃歌演奏実行委員会」の委員長も務めた。「記念讃歌」は翌年の開基100周年記念式典などで演奏され、同団も合唱メンバーの中心として参加した。

「ふらの・ものがたり文化の会」の代表・大西邑子さんは、子育て中だった30年前に東京でその上演形態と出会います。感銘を受け、やがて指導者となり、上富良野町では8年前から活動をスタート。活動は週1回。学校も年齢も多様なメンバーが集まります。テーマとなる物語を約1年かけてじっくり読み進み、分からない言葉の意味を調べたり、想像した場面の絵を描いたり……。「おしゃべりしながら、物語を囲んでとことん対話を重ねることが舞台の骨組みになります。同じ場面でも捉え方は十人十色。子どもと一緒に物語と向き合うことが、自身を見つめる糸口になることも」と大西さん。上富良野町で生まれる唯一無二の舞台は、これからも新たな展開を歩み続けることでしょう。

▶ ふらの・ものがたり文化の会

<http://furanomonobun.jugem.jp/>

平成25年1月に上富良野町で開催された「第8回賢治童話の世界・発表会」のステージ(右)。子どもたちの個性があふれる手作り絵本(左)



職後、読み聞かせを始めましたが、より活動の幅を広げ、基盤づくりをしようと、5年前、それぞれ独自に活動していたメンバーに声をかけ、同会を結成しました。現在は20代〜70代の男女13名の仲間とともに、町の子どもの読書推進事業の支援協力依頼を受け、町内の保育園や小学校、子育て支援センターなどへ。大型絵本の読み聞かせ、パネルやエプロンに絵を貼り付けるなど動きを取り入れたシアター、乳児が対象のブックスタートなどを通して、本の魅力を伝えています。「子どもの反応は正直ですから、いつも絵本の選定はドキドキ。興味を持って物語に入り込んでくれたときはホントにうれしい」と羽賀さんは本好きが多く、図書館はいつも賑わっています。

▶ 上富良野町読み聞かせ会「ムーミン」

何枚ものイラストを貼り付けながら物語を読み進める「パネルシアター」の様子(右)。町内の乳幼児健診ではブックスタートが行われる(左)



精肉店2代目・多田豊隆さん。豚さがりは深い旨みがあり、食感も良いのですが、独特のにおいと傷みやすいのが欠点でした。しかし、多田さんは「町の名物になるかもしれない」と、昭和40年代、父と共に商品化に挑み始めます。試行錯誤を繰り返して、特製の味噌だれに漬けた新商品を開発。真空パックで売り出したところ、地元から徐々に評判が高まり、やがて町外から足を運ぶ人も増えました。商品化の当初は、「豚さがり」の名称も商標登録していましたが、「どの店でも自由に使うてもらえるように登録は取り下げました」との事。現在は町内3軒の精肉店がオリジナルの味を競い合い、町おこしの起爆剤として、ますますその魅力が広がっています。

▶ 多田精肉店

空知郡上富良野町中町2丁目4-11
<http://www2.enekoshop.jp/shop/tadaseinikuten/>

店舗前には「豚さがり」のほりがはためく(右)。味噌味のほか、あっさりタイプの塩味、香辛料をブレンドしたスパイス味も販売(左)



平成24年度版「北の情熱」



当財団では、平成16年度の財団設立10周年記念を契機に、「北の情熱～文化・芸術活動の事例集(文化のまちづくり映像版)」の動画制作を行っています。

平成24年度は、「阿寒湖の文化遺産“イコロ” 新たな創作への道」(17分)として、釧路市阿寒町での取り組みを紹介しています。

釧路市阿寒町に整備され、平成23年12月にプレオープン、平成24年4月にグランド・オープニングした「文化施設“イコロ”」で行われた共催事業等を中心に、地域の歴史を背景にした人形劇などの新たな創作活動等が、財団ホームページから動画でご覧いただけます。

定期購読のご案内



情報誌「北のとびら」の定期購読をご希望の場合は、お問い合わせください。

※個人の方への送付の場合は、切手を負担していただいています。

文化情報
ライブラリー



事務局内で、文化や舞台芸術について、「読む」「聞く」「見る」ことのできる「文化情報ライブラリー」を運営しています。お気軽にご利用ください。

オークラの伝統を受け継ぐフレンチ。創造性あふれる中国料理。2夜にわたる「美食の集い」開催。

ホテルオークラ札幌 開業10周年
記念晩餐会



6月15日

ホテルオークラ札幌は
お蔭さまで10周年



中国料理晩餐会
6/12(水)



フランス料理晩餐会
6/14(金)

カクテルタイム 18:00～、ディナータイム 18:30～



ホテルオークラ札幌2階「フォンテース」

お一人様 **13,000円**

※料理・お飲み物、税金・サービス料を含む1人

【ご予約・お問い合わせ】宴会セールス課
TEL(011)221-4409

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目1
www.sapporo-hotelokura.co.jp/

ホテルオークラ札幌

豆蔵で、
新鮮な自家焙煎の
コーヒー豆を。

コーヒーは果物や野菜と同じ農作物です。焙煎後、日数が経つと劣化していきます。豆蔵では、良質のコーヒー豆を毎日必要な分だけ焙煎しているため、つねに高い鮮度の豆をご提供させていただきます。

- ☞ ご注文は、電話、Fax、ホームページをご利用ください。
- ☞ ご来店いただいたお客さまは、当店で扱っているコーヒーを無料で試飲できます。(全種)
- ☞ 無料のコーヒー教室(抽出方法など)を開催しています。お気軽にご来店ください。※要事前予約



珈琲豆専門 豆蔵

〒007-0836
札幌市東区北36条東19丁目1-20
Tel 011-790-6379
Fax 011-790-6389
10:00～18:30/日曜休/駐車場有

www.facebook.com/mamezo6379

mamezo-sapporo.com